

令和 7 年 10 月 31 日発行

◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆

農業担い手メールマガジン（第 4 3 7 号）

◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆・☆・◆

<トピックス>

1. 「アグリビジネス創出フェア 2025」を開催します！
2. 「令和 7 年度 病虫害発生予報第 8 号」（令和 7 年 10 月 8 日（水）付け）を発表しました
3. 令和 7 年 11 月 13 日（木）国内資源肥料フォーラム in 北陸 来場者募集！
4. （みどり戦略技術紹介）飼料残量管理ソリューション
5. 「地域計画」をブラッシュアップしていきましょう。
6. 50 歳未満の就農希望者を新たに雇用する皆様に応援します！（「雇用就農資金」の募集開始）
7. 多収でサツマイモ基腐病など複数の土壌病虫害に対する抵抗性をもつ原料用サツマイモ新品種「コガネタイガン」
8. 一般的なサツマイモでん粉とは特性が異なる低温糊化性でん粉原料用サツマイモ新品種「こなみらい」
9. 橙肉色の焼酎原料用サツマイモ新品種「はなあかね」
10. <参加者募集中>12 月 1 日（月）に「ノウフクの日」記念イベントを開催します！
11. 国産農畜水産物に含まれる有機フッ素化合物について
12. 11 月は薬剤耐性対策推進月間です！

◆◆◆現場の皆さんへ◆◆◆

【1. 「アグリビジネス創出フェア 2025」を開催します！】

農林水産省は、11 月 26 日（水）から 11 月 28 日（金）までの 3 日間、東京ビッグサイトにおいて、農林水産・食品分野の技術交流展示会「アグリビジネス創出フェア 2025」を開催します。

今年は、“スマート・スタートアップ — 先端技術で未来を拓く農林水産イノベーション” をテーマに、スマート農業技術メーカーやスタートアップ等が参加して、農林水産・食品分野等における最新の研究成果について出展するとともに、来場者と出展者のマッチングを促すツアーなど様々な企画を行います。

本日、来場事前登録を開始しました。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

■「アグリビジネス創出フェア 2025 スマート・スタートアップ — 先端技術で未来を拓

く農林水産イノベーション」について

日 程：2025 年 11 月 26 日(水)～28 日(金) 各日 10:00～17:00

会 場：東京ビッグサイト西 3 ホール（東京都江東区有明 3-11-1）

入場料：無料

◇ 詳細はこちらから（「アグリビジネス創出フェア 2025」特設 Web）

→ <https://agribiz.maff.go.jp/>

◇ 来場事前登録はこちらから（「アグリビジネス創出フェア 2025」特設 Web）

→ <https://agribiz.maff.go.jp/register>

※ 当日参加も可能ですが、事前登録をしていただくと入場がスムーズです。

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究推進課（担当：橋本、東）

TEL：03-6744-7044（直通）

アグリビジネス創出フェア 2025 事務局（株式会社フジヤ内）（担当：小松、飯田）

MAIL：agri-ex@fujiya-net.co.jp

TEL：03-3533-5522

【2.「令和 7 年度 病虫害発生予報第 8 号」（令和 7 年 10 月 8 日(水)付け）を発表しました】

農林水産省は、今後の農作物の病虫害発生動向や防除について「令和 7 年度病虫害発生予報第 8 号」を発表しました。

気象庁の向こう 1 か月の予報（10 月 2 日付け）では、気温は、北日本で平年並か高い、東日本、西日本及び沖縄・奄美で高いと予想されています。降水量は、北日本、東日本太平洋側及び西日本でほぼ平年並、東日本日本海側及び沖縄・奄美で平年並か多いと予想されています。

豆類では、大豆の吸実性カメムシ類の発生が、甲信、東海及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。

野菜・花きでは、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウの発生が、関東、近畿等の複数の地域の一部で多くなると予想されています。

果樹カメムシ類の発生が、北関東、東海及び九州の一部の地域で多くなると予想されてい

ます。

この他、ねぎのアザミウマ類等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので注意してください。

◇ 「令和7年度 病害虫発生予報第8号」の発表について（令和7年10月8日付け農林水産省プレスリリース）はこちらから（農林水産省 Web）

※ 都道府県の発表する病害虫発生予察情報と併せてご利用ください。

→ <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/syokubo/251008.html>

◇ 都道府県の病害虫発生予察情報などはこちらから（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省消費・安全局植物防疫課（担当：岡田、城野、古澤）

TEL：03-3502-3382（直通）

【3. 令和7年11月13日（木）国内資源肥料フォーラム in 北陸 来場者募集！】

農林水産省では、国内資源（家畜ふん堆肥、下水汚泥資源、食品残渣等）の肥料利用の拡大を目指し、肥料関係者間のマッチング機会の提供、先進事例の発信等、全国各地における国内肥料資源の利用拡大に向けた種々の取組を行っています。

この度、令和7年11月13日（木）に朱鷺メッセ（新潟県新潟市）にて、「国内資源肥料フォーラム in 北陸」が開催されます。

本フォーラムでは、肥料原料供給事業者、肥料メーカー、肥料利用者等が一堂に会し、基調講演や取組事例の紹介のほか、約40団体がパネル出展を実施いたします。ご興味のある方はどなたでも、無料でご来場いただけます。ご来場を希望される方は、以下公式HPより事前登録をお願いします（当日参加も可）。

日時：令和7年11月13日（木）13時～16時30分（12時45分受付開始予定）

会場：朱鷺メッセ 2階メインホール

内容：基調講演、事例発表、約40団体のパネル出展、相談窓口等

主催：株式会社マイナビ

参加申込締切：11月12日（水）まで

※ 本事業は令和7年度「国内肥料資源利用拡大対策事業」として運営しています。

◇ 詳細、事前登録はこちらから（マイナビ農業「マッチングフォーラム」公式 HP）

→ <https://agri.mynavi.jp/hiryo-forum/hokuriku/>

◇ お問い合わせ先

国内資源肥料フォーラム運営事務局（株式会社マイナビ農業活性事業部）

MAIL：agri-hiryo@mynavi.jp

TEL：03-6267-4019（平日 10:00～17:00）

【 4.（みどり戦略技術紹介）飼料残量管理ソリューション】

「みどり戦略技術紹介」では、毎月、環境負荷の低減に取り組む農業者の皆様に役立つ技術をご紹介します。

今回は、飼料残量管理ソリューションについてです。

飼料タンクの蓋の内側にとりつけたセンサーで残量を計り、残量情報を見える化するシステムが開発されました。各タンクの残量が一覧で表示されるため、飼料の枯渇防止に加え、危険かつ負担のかかる飼料タンクの巡回確認を大幅に削減でき、畜産農家の負担軽減と労働生産性の向上を実現します。また補充が不要なタンクは配送ルートから除外できるオプション機能を利用することで、配送業者の負担も減らし、配送時の CO2 排出量の削減にも貢献します。

本技術の詳しい情報については、みどり技術カタログをご覧ください。

◇ 「みどりの食料システム戦略」技術カタログ（分割版：畜産）（PDF：5,203KB）p.3 飼料残量管理ソリューション（農林水産省 Web）

→

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/08_midori_catalog5_animal.pdf#page=3

◇ 「みどりの食料システム戦略」技術カタログ（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省大臣官房政策課技術政策室（担当：中野、小松崎）

TEL：03-3502-3162（直通）

【5. 「地域計画」をブラッシュアップしていきましょう。】

地域の話合いをベースに将来の地域農業の在り方や農地利用を明確化した「地域計画」が、全国の市町村で策定されました。

これからは計画の実現や、策定された計画のブラッシュアップに向けて話合いを継続していくことになります。

地域の話合いには、若い方、女性の方、地域外の担い手の方のほか、農業者以外の幅広い関係者にも参加いただき、地域で一体となって話し合っていきましょう。

既に話合いに参加された方も、まだ参加していない農業者の仲間にもお声がけいただき、引き続きブラッシュアップに取り組んでいきましょう。まだ参加されたことがない方は、これからの協議の場の機会に、ぜひご参加ください。

特に目標地図をベースに話合うことで、気づきや話合いがしやすくなります。

市町村のホームページや窓口などで策定された地域計画や話合いの予定を公表しているので、「地域計画」「協議の場」で検索するなど、皆さんも積極的に確認や問合せをお願いします。

◇ 地域計画の詳細についてはこちら（農林水産省 Web）

→ https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/chiiki_keikaku.html

◇ お問い合わせ先

農林水産省経営局農地政策課（担当：地域計画グループ）

TEL：03-6744-2151（直通）

【6. 50 歳未満の就農希望者を新たに雇用する皆様に応援します！（「雇用就農資金」の募集開始）】

令和7年10月21日（火）～11月25日（火）まで、雇用就農資金の令和7年第3回募集を行っています。皆様からの申請をお待ちしています。

◆ 今回募集を行う事業

50歳未満の就農希望者を雇用し、必要な技術・経営ノウハウを習得させるための研修を実施する場合に資金を交付します。

(年間最大 60 万円、最長 4 年間等)

◇ 募集要領・申請書類等の詳細はこちら ((一社) 全国農業会議所「農業をはじめる.JP」Web)

→ https://www.be-farmer.jp/farmer/employment_fund/original/

◆ 随時募集している事業

農業法人等が既に雇用している職員を次世代の経営者として育成していくため、先進的な農業法人や異業種の法人に派遣して実施する実践研修を支援する「次世代経営者育成タイプ」については、令和 8 年 1 月 30 日 (金) まで随時、募集しています。

◇ 募集要領・申請書類等の詳細はこちら ((一社) 全国農業会議所「農業をはじめる.JP」Web)

→ https://www.be-farmer.jp/farmer/employment_fund/next/

◇ お問い合わせ先

農林水産省経営局就農・女性課 (担当：雇用グループ)

TEL：03-6744-2160 (直通)

【7. 多収でサツマイモ基腐病など複数の土壌病害虫に対する抵抗性をもつ原料用サツマイモ新品種「コガネタイガン」】

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 (以下「農研機構」) は、でん粉や焼酎の原料用サツマイモ新品種「コガネタイガン」を育成しました。「コガネタイガン」は、原料用の主力品種「コガネセンガン」より 4 割程度多収で、サツマイモ基腐病などの主要な土壌病害虫に対する抵抗性を有しています。また、萌芽性が優れるため、苗作りも容易です。でん粉の特性は従来のでん粉原料用品種とほぼ同等で、焼酎にした時の酒質(味と香り)は「コガネセンガン」の焼酎に似ています。そのため、南九州におけるでん粉や焼酎原料の安定供給への貢献が期待できます。

◇ プレスリリースはこちら ((国研) 農研機構 Web)

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/171412.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら ((国研) 農研機構 Web)

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課 (担当：戦略的実装班)

TEL : 03-3502-7407 (直通)

【 8. 一般的なサツマイモでん粉とは特性が異なる低温糊化性でん粉原料用サツマイモ新品種「こなみらい」】

農研機構は、低温糊化性でん粉をもつでん粉原料用サツマイモ新品種「こなみらい」を育成しました。低温糊化性でん粉は、食品の食感改良効果や品質保持効果などを有し、様々な食品に利用されています。「こなみらい」は従来の低温糊化性でん粉原料用品種「こなみずき」よりも、多収で、サツマイモ基腐病に強いです。南九州のサツマイモ産地への普及を見込み、安定生産とサツマイモでん粉の食品用途拡大への貢献が期待されます。

◇ プレスリリースはこちら ((国研)農研機構 Web)

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/171413.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら ((国研)農研機構 Web)

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課 (担当：戦略的実装班)

TEL : 03-3502-7407 (直通)

【 9. 橙肉色の焼酎原料用サツマイモ新品種「はなあかね」】

農研機構は、橙肉色 (とうにくしょく) の焼酎原料用サツマイモ新品種「はなあかね」を育成しました。橙肉色の普及品種である「タマアカネ」に比べ、より華やかな香りの焼酎ができ、またでん粉収量が多いので製造コストの低減も期待されます。苗の生産性も向上しています。南九州のサツマイモ産地への普及を見込み、芋焼酎市場の活性化に貢献することが期待されます。

◇ プレスリリースはこちら ((国研)農研機構 Web)

→ https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/171415.html

◇ 農研機構へのお問い合わせはこちら ((国研)農研機構 Web)

→ <https://www.naro.go.jp/inquiry/index.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省農林水産技術会議事務局研究企画課 (担当：戦略的実装班)

TEL : 03-3502-7407 (直通)

【10. <参加者募集中>12月1日(月)に「ノウフクの日」記念イベントを開催します!】

農福連携とは、農業と福祉が連携し、障害を持った人をはじめとする多様な人たちが、農業で活躍することを通じて、自信や生きがいを持って社会参画することを実現する取組です。

11月(November=ノウ)29日(=フク)は「ノウフクの日」!

12月1日(月)に記念イベントを開催します!

総合司会を、(株)AGRIKO代表取締役であり、俳優の小林涼子氏に務めていただき、農福連携に取り組む若手農業者等による講演・トークセッションを実施。また、農福連携製品の試食・展示を行うなど、多彩な内容で農福連携の魅力を発信します。皆様のご来場お待ちしております!(オンライン配信あり)

▼ イベント名

ノウフクの日記念イベント 2025「11月29日はノウフクの日!~聞いて、知って、食べて農福連携~」

▼ 日時

12月1日(月) 13時~17時

▼ 会場

ベルサール虎ノ門(東京都港区虎ノ門2-2-1 住友不動産虎ノ門タワー 2F)

▼ 共催

一般社団法人日本農福連携協議会、株式会社インサイト、農福連携等応援コンソーシアム、農福連携全国都道府県ネットワーク

◇ 詳細についてはこちら((一社)日本農福連携協会「農林水産業と福祉の連携のプラットフォーム」HP)

→ <https://x.gd/RITNi>

◇ お問い合わせ先

一般社団法人日本農福連携協会

MAIL : info@noufuku.or.jp

TEL : 03-6272-8839

農林水産省農村振興局都市農村交流課農福連携推進室(担当:農福連携企画班)

TEL : 03-3502-0033 (直通)

【11. 国産農畜水産物に含まれる有機フッ素化合物について】

農林水産省では、令和6年度に実施した国産農畜水産物に含まれるPFOSやPFOAなどの有機フッ素化合物の実態調査や試験研究の結果を8月末に公表しました。

今回の結果から、

- ・ 調査対象品目（14品目）の分析結果（濃度）と平均消費量を用いて、これらの品目からの摂取量を試算すると、PFOSで0.10 ng/kg体重/日、PFOAで0.08 ng/kg体重/日となります。これをヒトが一生にわたって毎日摂取し続けても、健康への悪影響がないと推定される一日あたりの摂取量である耐容一日摂取量（TDI）の20 ng/kg体重/日と比べると、それぞれ十分に少ない水準にあること。

- ・ 水稻の栽培試験の結果から、土壌中のPFOS及びPFOAは、ほとんど玄米に移行、蓄積しないこと。

が分かりました。

品目により含有実態が大きく異なる可能性が示唆されたことから、農林水産省では、令和7年度は対象品目を拡大した含有実態調査や、特異的に高い値が見られた試料の含有実態の把握及び要因の調査を行います。

◇ 調査研究結果の詳細についてはこちら（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/seisaku/250828.html>

◇ 食品中のPFASに関する情報についてはこちら（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/PFAS/>

◇ お問い合わせ先

農林水産省消費・安全局食品安全政策課（担当：漆山、勝田）

TEL：03-3502-7674（直通）

【12. 11月は薬剤耐性対策推進月間です！】

「薬剤耐性」という言葉をご存知ですか？

抗菌剤は、一度は処方されたことがあるような私たちの生活の中で身近な薬のひとつです。その抗菌剤の不適切な使用により、抗菌剤が効きにくくなる、または効かなくなることを薬剤耐性といいます。人の治療だけでなく、畜産分野でも動物用医薬品や飼料添加物として使用されており、良質な畜産物を安定供給するためには抗菌剤の使用は必要不可欠です。

しかしながら、家畜への抗菌剤の不適切な使用により増加した薬剤耐性菌が、家畜の治療を困難にするだけでなく、畜産物等を介して、人の感染症の治療を困難にすることが懸念されています。

薬剤耐性対策には、獣医療従事者、畜産生産者、ペットの飼い主、人の医療従事者などの様々な立場にある関係者が連携して、抗菌剤の“慎重使用”に取り組む必要があります。11月の薬剤耐性対策推進月間に合わせて、畜産生産者のみなさまに取り組んでいただいた4つのポイントを確認しましょう。

1. 適切な飼養衛生管理により感染症を予防する。
2. 家畜の健康状態を的確に把握する。
3. 獣医師が適切に診断できるように、病歴や病気の経過を詳しく獣医師に伝える。
4. 抗菌剤は獣医師からの指示に基づき、用法・用量、使用禁止期間等を守って正しく使用する。

YouTube で動画を公開しておりますので、ぜひご覧ください。

◇ 薬剤耐性対策普及啓発動画「畜産生産者の皆さまへ 薬剤耐性菌をご存じですか？（30秒 ver）」はこちら（農林水産省公式 YouTube「maffchannel」）

→ <https://youtu.be/kgAR6ZlCw-g>

◇ 薬剤耐性対策についてはこちら（農林水産省 Web）

→ <https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/torikumi.html>

◇ お問い合わせ先

農林水産省消費・安全局畜産安全管理課（担当：薬剤耐性対策班）

TEL：03-3502-8097（直通）

◆◆◆編集後記◆◆◆

金木犀の香りが漂う頃となりましたが、私の通勤途中にも金木犀の植栽が続く通りがあります。今年の冬に大掛かりな剪定をされていたようですが、無事に花を咲かせ甘い香りを漂わせています。この時期としては、東京地方でここ2年ほど続けて発表されている木枯らし1号がどうなるかも気になるころですが、季節は一步ずつ冬に近づいているようです。身体を動かすのに最適な季節でもありますので、ゆるめのジョギングやウォーキングなどで周辺の街路樹や庭木の様子から更なる季節の移り変わりを感じてみたいと思います。

■ 経営局公式 Facebook ページ「農水省・農業経営者 net」

→ <https://www.facebook.com/nogyokeiei>

■ ご意見・ご質問はこちら

→ <https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/keiei/keiei/180817.html>

■ リンク URL の一部に PDF 形式のものがあります

メルマガジンに記載した URL で、一部 PDF 形式のものがあります。PDF ファイルをご覧いただくためには、農林水産省ホームページ「3 PDF ファイルについて」をご覧になり、「GetAdobeReader」のアイコンで AdobeReader をダウンロードしてください。

→ <https://www.maff.go.jp/j/use/link.html>



○ 電子出版：農業担い手メルマガジン

○ 発行日：毎月 1 回発行

○ 発行元：農林水産省経営局経営政策課 担当：大庭

☆ このメルマガの配信申込み、バックナンバーはこちらから

→ https://www.maff.go.jp/j/kobetu_ninaite/n_hyousyou/hyousyou_merumaga.html

☆ このメルマガの配信変更、配信解除、パスワード再発行等はこちらから

→ <https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/index.html>

